



知る^しつ^つ学^{まな}ぼう^{ぼう} わたしたちの 川^{かわ}と海^{うみ}と港^{みなと}



川^{かわ}もり海^{うみ}もりプロジェクト

海と日本プロジェクト2018 子ども流域連携体験交流 新潟×長野×福島

親^おと海^{うみ}と
し^しも^もう!
8P 14P

川^{かわ}もり海^{うみ}もりプロジェクト
体験レポート
7P 13P

もっと学^{まな}ぼう!
暮らしを支えた「阿賀野川」
9P~12P

もっと知^しろう!
日本の大河「信濃川」
3P~6P

海^{うみ}と川^{かわ}はつながっている
これからもずっと、大切にしよう
1P 2P



海^{うみ}のこと、川^{かわ}のこと、もっと詳しく調べてみよう!
川^{かわ}もり海^{うみ}もりプロジェクト HPは^{ホームページ}こちらから



- 主催 新潟開港150周年記念事業実行委員会
(新潟市2019年開港150周年推進課内) TEL.025-226-2162
- 共催 新潟日報社、信濃毎日新聞社、福島民報社

にいがたこう れきし
新潟港の歴史

- 1616(元和2)年 ながおかはんしゅほりなおより みなとまち にいがた おこな 長岡藩主堀直寄が港町として新潟のまちづくりを行う
- 1672(寛文12)年 にほんかいがわ 下のせき せとないかい へ おおさか えど いた にしまわ こうろ 日本海側から下関・瀬戸内海を経て、大阪・江戸に至る西回り航路が整備される
- 1697(元禄10)年 にしまわ こうろ はってん ぜんこく そう ふね にいがたこう にゅうこう 西回り航路の発展により、全国から3,500艘の船が新潟港に入港する
- 1843(天保14)年 にいがたまち ばくふりよう 新潟町が幕府領となる
- 1858(安政5)年 あいだ しゅうこうつうしゅうじょうやく อเมริกา、オランダ、イギリス、ロシア、フランスとの間で修好通商条約をむす ほとんこ ころべ ながさき にいがた かいとう き 結び、函館、横浜、神戸、長崎とともに新潟の開港が決まる
- 1869(明治元)年 にいがたふ にいがた かいこう きゅうれきめいじがねん 新潟府が新潟を開港する(旧暦明治元年11月18日=西暦1869年1月1日)
- 1869(明治2)年 にいがたうんじょうじよ のち にいがたぜいがん かいしよ 新潟運上所(後の新潟税関)が開所する→1969(昭和44)年に国重要文化財に指定
- 1963(昭和38)年 しょうわ にいがたひがしこうけんせつ はじ 工業港として新潟東港建設が始まる
- 1964(昭和39)年 にいがたじしん はっせい にいがたこう かいめつてき ひがし う 新潟地震が発生し、新潟港が壊滅的な被害を受ける
- 1969(昭和44)年 にいがたひがしこう かいこう 新潟東港が開港
- 2011(平成23)年 ひがしにほんだいいんさい たいへいようがわ ひさい さい か みなと かつやく 東日本大震災で太平洋側が被災した際、代わりの港として活躍。国際拠点港湾に選ばれる
- 2019(平成31)年 1月1日に開港150周年を迎える
11月19日に新潟東港は開港50周年を迎える



うみ かわ
海と川はつながっている
これからずっと、大切にしよう



しなのがわさがんりょくち さだきせん げんかく ようす
信濃川左岸緑地より佐渡汽船を見学する様子

川も海も
プロジェクト

にいがたかいこう しゅうねん にいがたこう にほんかい しなのがわ あがのがわ
新潟開港150周年をきっかけに、新潟港、日本海、そしてそこにつながる信濃川・阿賀野川のことをもっと知り、好きになって、これからも大切にしていける気持ちを育む取り組みです。
この本には、川・海・港の大切さや、今年実施した「体験交流会」に参加してくれたみなさんが学んだこと、感じたことなどをまとめました。

新潟×長野

信濃川でつながる新潟・長野の小学5、6年生42人が新潟市で1泊2日の体験交流
実施日：2018年8月1日・2日

おもな体験

- 事前学習会で千曲川・信濃川を学びクイズ作り
- 日和山浜で海体験
- 新潟港や新潟港空港技術調査事務所の見学
- お魚マスター講座

新潟×福島 ■塩コース

阿賀野川でつながる新潟・福島の小学5、6年生40人が佐渡市と新潟市で1泊2日の体験交流
実施日：2018年8月18日・19日

おもな体験

- 佐渡七浦海岸で塩作り体験
- 佐渡真野海水浴場で海体験
- 新潟港と新潟市歴史博物館みなとびあ見学

新潟×福島 ■鉄コース

阿賀野川でつながる新潟・福島の小学3年生以上の親子40人が新潟市と三条市で体験交流
実施日：2018年8月25日

おもな体験

- 新潟市歴史博物館みなとびあ見学
- 三条鍛冶道場で鍛冶体験
- 農具を製造する相田合同工場見学

新潟市にある「新潟港」は、1858(安政5)年にアメリカなど5か国と日本が結んだ修好通商条約で、函館、横浜、神戸、長崎とともに開港五港の一つに選ばれ、2019年1月1日に開港から150周年を迎えます。開港五港のうち、唯一川の河口にある港として、信濃川・阿賀野川の舟運とともに発展してきました。

開港150周年をきっかけとして、新潟港・日本海、そしてそこにつながる信濃川・阿賀野川のことをもっと知り、好きになって、これからも大切にしていける気持ちを育む「川も海もプロジェクト」に取り組みました。

川・海・港は、私たちに多くの恵みを与えてくれる大切な宝物です。海に面して港を持つ新潟県、信濃川・千曲川でつながる長野県そして阿賀野川・阿賀川でつながる福島県のみなさんには、川・海・港のことをたくさん知って、川のことをたくさん知って、川の川上・下流の暮らしを互いに思いやり、大切な宝物をずっと一緒に守ってほしいと思います。



海洋大国日本の未来をつくるため、日本財団はみんなが海を知り、大切に守っていくためのさまざまな取り組みを全国各地で行っています。信濃川・阿賀野川の流域である新潟・長野・福島の3県で繰り広げられた「川も海もプロジェクト」は、日本財団の「海と日本プロジェクト」の一つとして行われました。

誇りにしよう 日本一の大河 信濃川

千曲川・信濃川って、
どんな川？
山梨・埼玉・長野3県の県境にある甲武信ヶ岳から、その川は始まります。長野県では「千曲川」と呼ばれ、北アルプスを源流とする犀川と長野市で合流し、新潟県に入ると「信濃川」と名前を変えて新潟市で日本海に注ぎます。その長さ・流量は日本一。
源流部から新潟市までは直線距離で220キロメートルですが、何度も曲がりながら流れるため、全長は367キロメートルにもなります。この間、川は私たちにさまざまな恵みを与えてくれます。

**川は土砂を運び
栄養も運んでくれる**
水を持つエネルギーは膨大です。川は流れるときに山を削り、



その土砂を一緒に運んでくれます。松本盆地は主に犀川が運んだ土砂で造られました。長野盆地は千曲川や犀川が運んだ土砂が積もった上を、川が何度も流れる道を変えた結果、地面が平らな地形になりました。新潟平野は、大昔は海だったところに川が上流から運んできた大量の土砂が積もってできた土地です。私たちの暮らす

場所、千曲川・信濃川が長い時間をかけて平らにした土地の上にあるのです。そして川は土砂と一緒に山の栄養もたくさん運んでくれます。これが田んぼや畑だけでなく、川が注ぎ込む海の生き物にとっても欠かせない養分となっています。私たちがおいしいお米や野菜、魚を食べられるのも川のおかげです。



長野県の菜の花
菜の花は肥料成分の多い土でなければ育ちません。長野県で江戸時代から菜の花が盛んに栽培されているのは、千曲川が栄養豊かな土を運んでくれているからです。

川も海もプロジェクト 新潟×長野

海の魚にも川から流れる森の栄養が大事なんだね



お魚マイスター講座(8/2)

新潟市にある新潟港湾・空港整備事務所で大型浚渫兼油回収船「白山」の説明を受けました。「白山」は、新潟港の水の深さを船が安全に行き来できる深さに保つため、港の底にたまった土砂を一年中取り除いています。千曲川・信濃川は、いまもたくさんの土砂を下流に運んでいます。

「白山」はね、船の底からポンプを伸ばして掃除機みたいに土砂を吸い込むんだよ



新潟、長野の小学5、6年生は体験交流会の前に、まずは自分たちの地域を学ぼうと、それぞれの県で事前学習会を開催。新潟会場、長野会場をインターネットでつなぎ、学んだ内容でクイズを作って出しました。長野からは「千曲川の源流は、いくつの県にまたがっているでしょうか」、新潟からは「しゅんせつ船白山は何をする船でしょうか」というクイズが出されました。(クイズの答えは3、4ページの中にかかれています)



事前学習会新潟会場の様子(7/21)

こんなに使われている信濃川水系の水

信濃川水系では明治30年代から水力発電が行われ、電力によって日本の近代化を支えた。



最大出力

600万キロワット※

水力発電所の数も発電量も日本の河川で最も多く、山手線など首都圏の電車にも信濃川水系で発電した電気が送られている。

※1時間の発電量が住宅1,400戸の1年分の使用電力に相当

流域に暮らす人およそ290万人。

うち276万人が使う水道水が信濃川水系から供給。

家庭で1人が1日使う水の量はおよそ250リットル。



1人1日 2ℓのペットボトル 125本

新潟、長野のさまざまな産業にも信濃川の水は使われている。工業用水には、水系全体で水道水の1.2倍使われている。

農業用水は10万4,000ヘクタールの農地を潤している。その面積は日本で4番目に大きな湖である猪苗代湖およそ10個分に相当。

10万4,000ヘクタール



もっと知ろう! 日本一の大河「信濃川」②

川や海ともにあるために私たちができること

川の事は、私たちの暮らしにとって必要なものさうでないものを区別はしてくれません。家庭や工場から出る排水はきれいに処理され川に流されますが、家庭から流す水をできるだけ汚さないことが、川と海をきれいにするためにとても大事なことです。また、川は時に恐ろしい水害をもたらすこともあります。川は増水すると、あふれたり、流れを変えてしまったりもします。それは私たちが安心して暮らせないで、川が同じ場所を安定した水の量で流れていくようにするのが「治水」です。その時代にあった技術を用いて治水は続けられ、集中豪雨にも耐えられるよう、現在も日々努力が続けられています。増水時には上流から流れてきたゴミや倒木が橋などで詰まってダムのようになり、そこから水があふれてしまうことがあります。山をきれいにしたり、森を元気にしたりすることは、災害を防ぐことにもつながります。

港なんだって

私たちの暮らしと川はとても近い存在です。一人一人が川と海とともにあるために何ができるか考えてみましょう。

川幅いっぱい水があつて、千曲川と違うね

川なのに佐渡や北海道に行く大きな船が入ってくるよ!

新潟平野を守る大河津分水路

1922(大正11)年に完成した大河津分水路は、信濃川本流の膨大な水量を河口の手前一部日本海に流し、下流の新潟平野を水害から守るために造られました。千曲川、信濃川上流に大雨が降り川の水の量が増えたと、下流に流す一定量以外はすべて大河津分水路から日本海に流しています。昔は毎年のように水害にあって、あまり米がとれなかった新潟平野が、全国有数の米産地になれたのは大河津分水路のおかげです。



信濃川が新潟平野に入ってから一番海に近くなるところで造られた大河津分水路。分かれたあとは信濃川本流の方が分水路よりも細くなっています

信濃川水系で過去に起きた大水害

戌の満水

発生：1742(寛保2)年8月2日
被害：洪水と土砂崩れが多発し、千曲川流域の死者はおよそ2,800人と推定。長野県小布施町押羽地区に建つ洪水水位標によれば深さ10.9メートルに達し、この地点の観測史上最高位。
対策：松代藩(長野市)は川の流路を城から離れた場所へ移して、蛇行も抑える「瀬替え」を行い、洪水から18年後に完成。

横田切れ

発生：1896(明治29)年7月22日
被害：新潟平野のほぼ全域が被災し、「信濃川百年史」によれば流失家屋は2万5,000戸。燕市の水位は4.4メートル。
対策：信濃川の流路が最も日本海に近づく燕市から水路を造り、一部を日本海に放出する大河津分水路を建設。当時「東洋一の大工事」と呼ばれ、13年にわたる工事を経て1922(大正11)年に完成。

私たちの暮らしと川は、こんなに近い

千曲川・信濃川は大昔に私たちの暮らしを平らな土地を造っただけではありません。今、水道から出てくる水も、田畑の水も信濃川水系を流れる水。そして信濃川水系の発電用ダムはたくさん電気をつくり、首都圏の電車も走らせています。

体験レポート

参加したみんながレポートを書いてくれました。その一部を紹介します。



班ごとにまとめた2日間の体験



バーベキューをした後、みんなでたき火を囲みました。そしてこの後、真っ暗になってからスナガニ探し!

私は今回、千曲川が信濃川より長いと知っておどろきました。信濃川は新潟県のシンボルなのに長野県の千曲川が半分以上をしめていたので、千曲川はすごいなと思いました。千曲川は見たことがないので、長野県に行くと、千曲川が信濃川とどのようになっているのかを知りたいです。信濃川は千曲川があるおかげで日本一長い川になっています。今までは身の回りの事しか考えていなかったけど、今回はいはん囲みで見ることで、新しい発見があったので、見るはん囲を広げることがとても大切なことだと思います。

新潟市立木戸小学校6年
杉原心愛さん

私は千曲川・信濃川について学び「川は大切にしないと」と思った。理由は、信濃川は長野県から新潟県を通って日本海へ流れ込むことを知って、「私たちが千曲川を汚くしたら、新潟の人たちはとてもいやな気持ちになるんだろな」と思ったからである。上流の私たちが長野県民は、上流だから川がきたないことは少ないと思う。だが自分たちが気にならないからといってゴミを捨ててしまうと新潟県の信濃川流域の人はきたない水に大いにくる。新潟の人たちはその水を使って生活する人もいるだろうし、もし自分がそういう立場だったら自分も絶対嫌な気持ちになるだろう。

長野市立篠ノ井小学校6年
前山ゆきのさん

ぼくは新潟市の中央区で生まれており、海はすごい知っていると思っていました。けどこのプロジェクトに来て分かったことがいっぱいあってビックリしました。知らないことがいっぱいあってはすかしくなりました。その知らなかったことは音が鳴る砂があるということ。ぼくはそのことを知ってわくわくしてきました。さわってみたら本当に鳴ってすごいと思いました。ぼくは海はあまり関心がなく、無関心だったんですけどもこのプロジェクトに来て無関心から関心になりました。ぼくはこのことをすごくほこりに思います。今度は海のことをみんなに伝えるようになりました。

新潟市立日和山小学校5年
佐藤凜音さん

ぼくが今回の川も海もプロジェクトで、初めて知ったことは、次の二つです。一つめはしゅんせつ兼油回収船が日本に3隻しかないのに、そのうち一隻が新潟港にいます。ということ。名前が白山です。そんなすごい船が身近な場所にあったのに、今まで気がつかなかったことにびっくりし、ほこらしく思いました。二つめは、波をおこす機械で海岸の研究をしている人たちがいたことです。

新潟市立女池小学校5年
高橋睦喜さん



新潟港湾空港技術調査事務所の水理実験場で波を起こす実験を見学



魚や貝があるのでみんな水の中をのぞきこんでいました。小さな二枚貝がいくつも採れました



海と親しもうー！

ライフジャケットや靴を着用しようー！

海はたくさんのおもちゃを与えてくれますが、波にさらわれるなど、危険な面もあります。楽しく遊ぶための注意点がこちら。ライフジャケットや靴を着用することで、けがや事故を減らすことができます。しっかりと守って安全に遊ぼう!!

① 正しく着用しよう!

- ファスナー、ベルトは全てしっかりして体に密着させること
- 海に落ちたときに脱げてしまえば意味がありません



② もしもおぼれそうになったら?

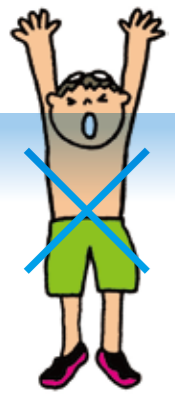
ライフジャケットを着用している場合

- 海の上(明るい方)を見る
- ライフジャケットを着ていれば必ず体が浮く
- 両手を広げてラッコのような姿勢を取る
- 何よりもあわてないこと



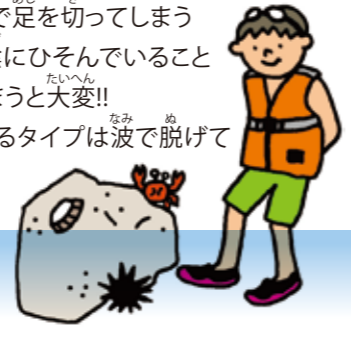
ライフジャケットを着用していない場合

- 助けを呼ぼうとして手を上げると、体が真っ直ぐになって沈んでしまいます。あわてずに、仰向けになって両手を広げると、海ならば顔を出すことができます



③ 岩場は必ずマリンシューズなどぬれても良い靴をはこう!

- 岩や、岩に付着した貝やウニなどで足を切ってしまう
- オニカサゴなど毒を持つ魚が岩陰にひそんでいることがあります。気づかずに踏んでしまうと大変!!
- ビーチサンダルのようなつかけるタイプは波で脱げてしまうので靴をはこう!



砂浜も遊びの宝庫!でもいろんな漂着物があるから素足はちょっと危険。次に誰かがけがをしないように、ゴミは持ち帰ろう



ライフジャケットのおかげで沈まないよ

岩場や波消しブロックの周囲は海藻やさまざまな生き物がいて楽しい。だけど靴をはかないと危ないよ



ライフジャケットがきちんと締まっているかお互い確認しよう



川も海もプロジェクト

新潟 × 福島
塩コース

海水から塩作りを体験!
佐渡市の七浦海岸夫婦岩で、海水からの塩作りを体験しました。



①

- ①まずは海水をくみ上げます。これが一番の重労働。
- ②平らで大きな釜に海水を入れたら、あとはひたすらまきを入れて熱し、海水を蒸発させます。
- ③塩の結晶ができてきたら、何度もザルでこして不要な成分を取り除きます。これをやらないと塩が苦くなってしまいう大事な作業。苦い成分は豆腐を固める「にがり」です。



②



③



塩むすびを作りみんなでおいしくいただきました。



イザベラ・バード
金坂清則著
「イザベラ・バードと日本の旅」
(平凡社、2014)より

会津の米や漆器、新潟港から各地へ
江戸時代には、津川(阿賀町)は、新潟港と川でつながっていたことから、さまざまなものが運ばれていました。この時代では、お米は地元で食べる以外は売り買いの中心地だった大坂(いまの大阪)へ運ばれることが多く、会津の米は津川で船に積み込み新潟港へと運ばれ、新潟港で大きな船に積み替えて、日本海から瀬戸内海を経て大坂へ届けられました。会津の名産である漆器も、新潟から船で全国へ運ばれていました。一方、新潟の町は、ものや人が行き交う「

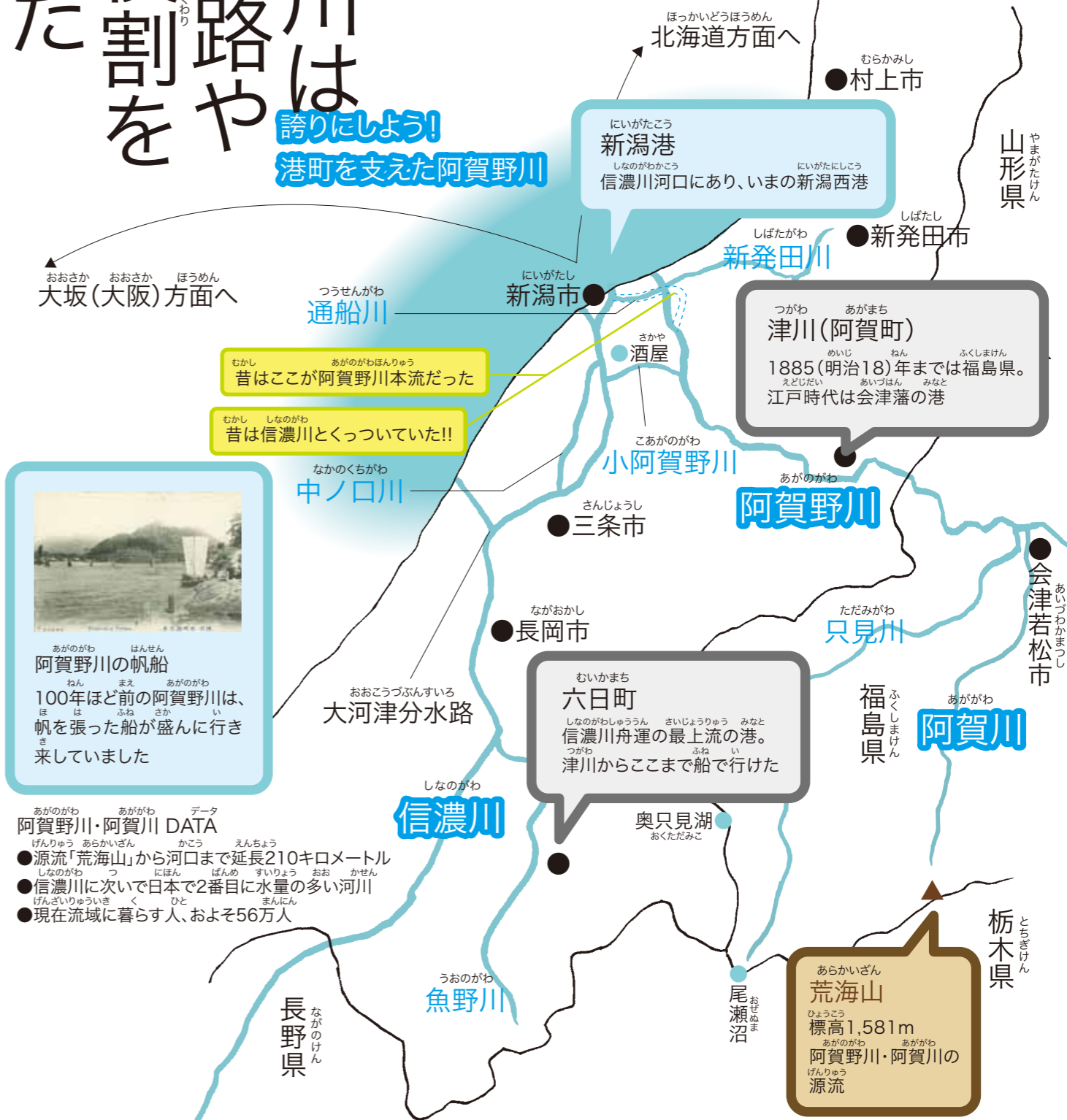
とで人々の暮らしが成り立っていたので、港を使ってくれる会津の人々は大事なお客さん。互いに良い関係にありました。
暮らしに欠かせないものも川で運んだ
会津から川を下ってくるまきを、新潟では塩作りに使っていました。意味で「塩木」と呼んでいました。日本の塩は、ほとんどが海水を沸かして作られます。ずっと昔は新潟の周辺でも塩作りが行われ、森の豊かな会津からのまきを使っていたようです。そして新潟から会津へも塩がたくさん運ばれていました。味付けや保存食づくりに欠

かせない塩も、阿賀野川でやり取りされてきました。
川の役割と言えば、飲み水や生き物、美しい景観をイメージしますが、昔の川は今の道路や鉄道の役割を担っていて、今以上に暮らしに欠かせないものでした。
津川↓新潟は船で8時間
1878(明治11)年、イギリス人で女性旅行家のイザベラ・バードが会津若松から津川、津川から新潟を旅しています。彼女が後に書いた「日本奥地紀行」によれば、津川から新潟まで阿賀野川を下

る定期船が朝の8時に出ていたそうです。新潟までは8時間かかり、料金は30銭。当時通っていた東京の新橋―品川間の鉄道料金を基準にすると、30銭は現在の960円くらいです。彼女が乗った船は、25人くらいの人と荷物を運んだそうです。時間はすいぶんゆつたりですが、当時船は最も重要な交通機関でした。

むかし、川は誇りにしよう! 港町を支えた阿賀野川

鉄道の役割を担っていた



つながりのはじまりは川港

外国との玄関口 「開港五港」

江戸時代の終わりがらまでは、外国との人の行き来やもの売り買いは徳川幕府によって禁止されてきました。それが、1858(安政5)年にアメリカなどの五つの国と国際条約を結んだことにより、横浜、神戸、長崎、函館、新潟の五つの港に限定して、人やもの行き来が認められました。この五つの港を「開港五港」と呼んでいます。



新潟港は、日本一の長さで水量を誇る信濃川、水量ではそれに次ぐ阿賀野川とつながっています。海を使って全国に荷物を運ぶだけなく、会津から金物の産地として栄えた三条や関東への入り口だった六日町へ荷物が送られるなど、川を使ってたくさんのも物が運ばれていました。まさに、新潟港は二つの川を通じて、川沿いの町や村と広い範囲でつながっていたのです。

二つの川とつながる川港
港には、船が波の影響を受けない状態になっていることが求められます。現代では、海に大きな堤防を造るなどして港を整備することができず、昔はそうした技術がなかったため、海岸に面した入り江や、川が海へとつながる河口に港が造られました。入り江の港は海に向かって開かれています。河口の港は海だけでなく陸地にも開かれています。開港五港の中で、新潟港だけが河口にある港「川港」

大切にした「つながり」
開港した150年前の新潟は、河口に面した狭いところだけがま

現在の新潟港(新潟西港)。
まちの中まで大きな船が入ってくるのは、日本では川港である新潟ならではの景観です



いまの新潟市歴史博物館みなとびああたりの景色です。100年ほど前までは信濃川に木造帆船がたくさん出入りしていました。



ちで、港を出入りする船を見ながら人々の暮らしがありました。まちの中にはたくさん堀があつて、どこへでも船を使って荷物を運んでいました。
船や港は、私たちの暮らしに欠かせない存在であり、昔は今以上に港に寄り添った暮らし方をしていた。そして、港につながる川を使い、より広い範囲の人々がつながりを持ち、お互いの暮らしを支え合ってきたのです。

港に欠かせない税関

税関は、国をまたいで売り買いする場合にかかる税金を納める機関。同時に、国が定めた輸出入禁止のものが含まれていないか監視し、何がどれだけ輸出入されているかも調べています。国際港、そして国際空港には税関があり、国をまたぐ売り買いを調べています。その記録によると、開港した年に新潟港から、福島県で生産された蚕卵紙(カイコの卵が産みつけられた紙)が輸出されていました。



150年前、新潟港が開港して間もなく、船着き場に新潟税関庁舎が建てられました。1969(昭和44)年に国の重要文化財に指定

川も海もプロジェクト 新潟×福島

港と鍛冶を体験!

新潟市歴史博物館みなとびあで、福島県と船で行き来していた江戸時代の様子を学びました。みなとびあは150年前の新潟開港の時に税関が建った場所にあり、いま目の前を船が通ります。



塩と同じように阿賀野川で福島県に運ばれたものの一つに、包丁や農機具などの金物があります。江戸時代、原料の鉄は島根県から船で新潟に運ばれ、川船で信濃川を三条へ。ここで金物になって信濃川から阿賀野川へ入り、会津へ運ばれていました。

熱した五寸釘、
たたかるとどん
形が変わっていくよ



三条鍛冶道場(三条市)で五寸釘からペーパーナイフづくり

日本全国で
使われている
さまざまな形の
くわを作っている
工場だよ



農機具をつくる相田合同工場(三条市)の見学

ホンペラ



幼魚には、背びれと尾びれの付け根に黒い斑紋がある。小型個体は体に目立つ模様はないが、大型個体には、赤色や緑色の模様がみられる。小型の個体にはオスとメスがいますが、大型の個体はオスしかない。メスからオスに性が変わる魚で、その際に体の色や模様も変わる。夜は砂の中にもぐって休眠する。
すんでいる場所: 岩や海藻のあるところ

アマフラン



全長30cmほどまで成長する軟体動物。体の色は暗褐色で小さな白点が多数散在する。危険を感じたり、刺激を与えると体から紫色の液体を出す。貝の一種で、体の中に貝殻がある。生み出された卵の塊はウミソウメンと呼ばれる。海藻を食べる。
すんでいる場所: 岩や海藻のあるところ

キユウセシ

小型の個体では白色、大型の個体では緑色の体に、2本の黒い縦じま、6本の細く赤い点状の縦じまがある。小型の個体にはオスとメスがいますが、大型の個体はオスしかない。メスからオスに性が変わる魚で、その際に体の色も変わる。夜は砂の中にもぐって休眠する。
すんでいる場所: 砂のあるところ



スナガニ

節足動物。海岸の砂の中に巣穴を作りすむ。左右のはさみの大きさが異なる。
すんでいる場所: 砂浜



マアジ



体色は背中側が金色、腹側が白色をしていて、尾びれの前に「ぜいご」とよばれるトゲのような鱗がある。群れをつくり沿岸を回遊する。
すんでいる場所: 沿岸のさまざまなおところ



ギンボ

体長30cmほどになる茶色の細長い魚で、メスが産んだ卵にオスが巻き付いてふ化するまで守る。
すんでいる場所: 岩場の浅瀬

川もり海もりプロジェクトのウェブサイトでは、これ以外にもたくさん、およそ40種類の生き物を写真とともに紹介しています。
すんでいる場所や特徴、名前を覚えて生き物を探して、海生き物と親しんでください。

<https://kawa-umi-niigata.com/archives/331>

海と親

しもう！ 2

日本海の生きもの

海で遊んでいると、さまざまな生き物に出合います。新潟市の日和山浜では「足に魚がさわった！」と、初めて海水浴をした子どもたちが驚いていましたが、これがプールでは味わえない楽しさです。海水浴はもちろん、釣りや磯遊び、砂浜を歩いて、海の生き物を探してみてください。

私の住む新潟市は信濃川や阿賀野川、そして日本海にとても近いですが、両親には小さいころから「川や海は危険な場所」と教えられてきたり、また夏は海水浴よりもプールで遊ぶことが多かったため、これまであまり「水に親しむ」というようなことを真剣に考えたことがありませんでした。
 でも、今回のツアーに参加し、道路がまだしつかりできていない時代に、阿賀野川が福島県との交流に大切な役割を持っていたことや、海水から塩がとれる様子を学ぶことができたことで、海や川が私たちの生活とは切りはなせないものだということがよく分かりました。
 また、磯や海でふだんできないような面白い遊びを経験できたことで、海や川で遊ぶことの楽しさが分かったし、怖いイメージもなくなりました。

新潟市立鳥屋野小学校6年
 坂上春樹さん

ぼくが将来大人になった時、阿賀野川・阿賀野川と日本海に関心をもってもらうために未来の子どもたちに阿賀野川・阿賀野川の良い所を伝えて行きたいです。
 ぼくは、初めて川の河口を見に行きました。川の河口が大きい事や水がきれいな事を細かく後の世代に伝えていくことが必要だと思いました。

新潟市立木崎小学校5年
 加藤泰樹さん

みんなと一緒に海水から塩を作る体験をしました。その塩で作ったおむすびは、とてもおいしかったです。海水は、こんなふうにはわたしたちのいろいろな食べ物に使われます。だから、海はキレイでいてほしいと思います。そのためにはわたしたちがかんきょうを守る事が大切だと思います。そのためには、すなはまのゴミをへらしたり、家で使うせんざいの量を少なくしたり、かんきょうにやさしい物にしたりすると良いと思います。

郡山市立富田小学校5年
 佐々木陽香さん

私は川もり海もりプロジェクトの塩コースに参加して、福島に友達ができました。みんな最初は話したりできず、しーんとしていました。でも、一泊二日一緒にすごし、帰りの船では昔からの友達のように話せることができてうれしかったです。
 塩コースの体験では、班のみんなとバナナボートやジェットスキーに乗りました。乗っているとき、水がかかると寒くて「つめたい！」ともりあがりしました。同じことを一緒に体験して楽しさを共有できたことが私にはうれしかったです。

上越市立有田小学校6年
 土屋晶さん

川も海もプロジェクト 新潟×福島

塩コース 体験レポート

参加したみんながレポートを書いてくれました。その一部を紹介します。



よるまじは佐渡のカニを1人1杯ずつ。「どうやって食べるんですか?」と聞きながら甲羅をはがしました



かえりのカーフェリー。さだを差し出すとウミネコがキャッチ!



バナナボート体験。「落っこちたら上を向けー!」と言われましたが、誰も落ちませんでした

